


かなしみいのる  
Proseuchomai 

小泉友美KOIZUMI





# 目次

Proseuchomai . . . . .	1
------------------------	---



## Proseuchomai

かなしみ いのること Proseuchomai

恨み、怒り、悲しみ、後悔といった負の感情の連鎖を止めて、祈る事について。

生きる事は恵みですが、苦しい事もあり、何故、どうして、今、生きているのかわからなくなります。

旧約聖書を読むと、人間が悲しみに打ちのめされて、絶望と孤独の状況に置かれた時に、挫けた心、迷った心、傷ついた心と、心を通しての表現が多く使われています。身体的 (肉体的) な悲痛よりも、精神的な苦しみがいかに人間にとって辛いものか、考えさせられます。

旧約聖書の詩篇 109 の 16 節において、" 彼は慈しみの業を行なう事に心を留めず、貧しく乏しい人々、心の挫けた人々を死に追いやった。" とあり、この心の挫けた人々とは、絶望に打ちのめされた状況にある人々です。また、詩篇 143 の 4 節内の" 私の霊は萎え果て、心は胸の中で挫けます。" という表現は、あまりの心身の痛みに心が碎けるように痛むという意味です。

悩みの中、黙し続けていましたが、神に対しておのれの罪と、過去を祈る事で告白した時、赦しを得ました。そして、その赦しを得た感謝をさらに祈りました。この様に、困難な立場にある時、人々はその苦しみと罪の意識から解放される為に祈ります。

新約聖書において、主人公のイエス・キリスト自身、悲しみの気持ちに押しつぶされて生きていました。涙を流すキリストの描写は頻繁で、愛するラザロが亡くなった時、人目をはばからずに涙を流しました。(ヨハネ福音書 11 章 33 - 35 節)

イエス・キリストは涙を流して、悲しんでいる人達が幸いなのは、いずれ神によって慰められるから、と言います。(マタイ福音書 5 章 4 節)

イエス・キリストは、生活の全てに泣く事、笑う時、悲しむ、すべての時があると言います。(伝道の書 3 章 4 節)

そして、いつしか、神自身が人と共存して、人の目から涙をまったく拭い取って下さると言い、もはや、死も無く、悲しみも、叫びも、痛みも無くなると言います。(黙示録 21 章 3 節- 4 節)

このイエス・キリストの経験した悲しみとは、傷ついて苦しんでいる人々と痛みを共感して、また、自分自身に課されて試練による悲しみです。

キリストのむせんだ涙とは、聖なる哀しみ、美しき哀しみ、そして、この世にあるすべての悲しみは死を創りあげます。(コリントの信徒への手紙二 7章 10節)

キリストは神からの使命によって、多くの悲しんで、傷ついた人々に直接出逢い、無条件に癒しました。

そのキリストの癒しは様々で、多くの病人や悪霊に取り憑かれた者を癒して、悪霊を追い出して、悪霊を黙らせました。或日、カファルナウムの会堂に入ると、汚れた霊に取り憑かれた男がいて叫びました。霊によって、男は全身痙攣して、大声をあげました。

キリストはその汚れた霊に対して、

" 黙れ。この人から出て行け" と叱ると、悪霊は大声をあげて出て行きました。そして、男は癒されました。

(マルコによる福音書 1章 21-28節、

ルカによる福音書 4章 31-37節)

イエス・キリストの癒しは、祈りによってなされず、説教をしたり、自分の服の膝を触らせて癒したり、(イエスの服に触れる女 マタイによる福音書 9章 18- 26節、マルコによる福音書 5章 21-41節)

唾をつけて、病人や悪霊に取り憑かれた人々を癒しました。

(ガリラヤ湖の耳が聞こえず、舌のまわらない人を連れて来て癒した マルコによる福音書 7章 31節)

このキリストは、自分の手かざしと言葉による命令 (声) によって癒しました。

この様に、新約聖書は多くの涙で飾られています。

涙を流す事は、苦しみを表現して、癒される事につながる行為ですが、いずれこの苦痛の重圧から解放されたいとの願いがあり、泣く事によって、いずれ喜びへと変わってゆきます。この喜びなる哀しみとは、悲しい状況であっても、常に心は喜びに満ちていなくてはならないという事を表現しています。

( フィリピの信徒への手紙 4章 4節)

悲しみとは、魂の病であって、生きる力を失なわせます。

キリスト自身も泣きましたが、そのまわりの信徒達も泣きました。

キリストが十字架にかけられる前に、集まった民衆と女性信徒達は嘆き、泣きましたが、キリストは後ろを向いて" 私のために泣いてはいけない" と言い、悲しみに浸るのではなく、喜びへと向かわなくてはならないと、励ましました。

また、キリストの死後に、最愛の女性信徒のマグダラのマリアが墓からイエスの遺体が無くなっている事に気づいて、涙を流しました。

突然、亡くなったキリストが庭師として、目の前に顕れて、喜びを見いだして、その涙は悲しみから祝別の涙となり、天上へと向かうキリストを後にして、これから、マグダ

ラのマリア彼女自身が、キリストを代表とする使徒として、善き教えを伝道していかなければならない使命をわかりました。

(ヨハネの福音書 20 章 18 節)

祈りによって、まず神と親密な関係を持つ事が出来、次に全ての創造物 (人間、自然) とつながってゆきます。

ただ、新約聖書を読むと、イエス・キリストは神の御心のままに委ねる事を祈ります。

(マタイの福音書 26 章 36 節、ルカの福音書 22 章 39 節 46 節)

そして、自身と一つとなる様に神に祈りました。

この祈りとは、キドロンの谷へと弟子達と向かって、祭司長と兵士の一団が向かって来て、逮捕される前の祈りです。

" 私のものはすべてあなたのもの。

あなたのものは私のものです。

私は彼らによって栄光を受けました。(…)

聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって、彼らを守ってください。私達のように、彼らも一つとなる為です。(…)

私に対するあなたの愛が彼らの内にあり、私も彼らの内にいる様になる為です。"

次に祈りについて書きたいと思います。

どんな宗教・信仰においても、祈る事は重要です。

祈りの役目は、傷ついた魂・心・身体を癒す事です。

ギリシャ語で祈りは、proseuchomai で讃える事、また正座するという意味があります。

例えば神道において、祈りや言によって、悲しみを癒す事が出来ます。

コト・タマ (言霊) は、アメツチを動かす程の強力な力があると言われています。言葉には霊が宿り、精妙な波動をともなっており、霊威があります。例えば、悲しみ、苦しみ、嘆きというネガティブ (負) を祓う事の出来る言霊のこもった祈りとは、

ヒフミの祓詞 (ひふみはらえことば)

(47 の清音のみで構成された祈り)

" ひふみよいむなやこともちろらぬ

きふゆいつわぬそをたはくめか

うおえにさりへて

のますあせえほれけ"

この言葉を祈りとして唱えれば、万の厄災が幸福へと変わると信じられて来ました。

神道の祈りは、根本的にお祓いの祈りといった自己休済的な個人的な祈りですが、キリ

スト教の祈りとは、個では無く、共という意味が強く、ミサ中の祈りの意図の様に、いかに苦境にあっても、祈る事は美しい事と思います。

祈りは自分の魂と語り合い、苦しみを少しずつ幸せへと導てゆきます。

どんな絶望にあり、孤独であっても、祈りを通して、神に出逢う事の不可思議さ、そして、神の愛に導びかれてゆく事への感謝。

2026年5月19日 フランス・ アンジェ Angers 平和 祈



---

かなしみ いのること Proseuchomai

---

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---